

くまもと

'93市勢要覧

KUMAMOTO





C O N T E N T S

熊本市民愛市憲章	1
市木・市花・市鳥	2
発刊のことば	3
ヒューマンシティくまもと	4
熊本市のあゆみ	6
名誉市民	14
地域と気象	15
人 口	16
水と緑の人間環境都市を目指して	
良好な環境づくり	19
緑と水	20
公害防止	21
清 掃	22
防 災	24
消 防	26
交通安全	27
住 宅	28
公園緑地	29
上水道	30
下水道	31
市街地開発	32

道 路	34
市電・市バス	35
基幹交通	36
いきいきとした市民福祉都市を目指して	
高齢者福祉	39
心身障害者福祉	40
地域福祉	41
社会保障	42
児童・母子福祉	44
健康文化	45
保健医療	46
雇用福祉	48
消費者行政	49
男女共同参画社会	50
学校教育	51
学校施設	52
社会教育	53
青少年の健全育成	54
創造的な人づくり	55
活力あふれる交流拠点都市を目指して	
国際交流	57

観光・コンベンション	58
流通・情報拠点	62
中小企業	63
魅力ある商店街	64
工 業	65
農林水産業	66
風格ある文化創造都市を目指して	
歴史文化	68
史跡・文化財	69
都市景観	70
市民文化	71
行 政	72
熊本市行政機構図	73
市議会	74
財 政	76
広報・広聴	78
市民のくらし	79
熊本市のご案内	80
資料編	81
市内の主な官公署	91
熊本市歌	

(題字……熊本市長 田尻靖幹)
(写真説明)

熊本城天守閣の鯨鯨

鯨鯨とは、格式高い宮殿、楼門、城郭などの屋根の大棟の両端に取り付けられる瓦または金属製の飾り物のことである。虎に似た頭（一説には龍に似た頭）、ハリネズミのように鋭いとげのある皮、ひれをもち、人をかみ、老いと鯨魚になるという想像上の魚形海獣をかたどっている。雌雄一対をなし、波をおこし、雨をよぶ海獣として、火難除けの呪いの意味が込められている。

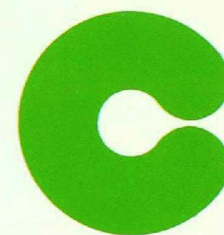
'93市勢要覧

熊本市民 愛市憲章

品位ある市民の誇りのために

私たち熊本市民は 清潔で住みよい街をつくりましょう
私たち熊本市民は 郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう
私たち熊本市民は 時間を正しく守りましょう
私たち熊本市民は 交通道徳を重んじましょう
私たち熊本市民は 互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

昭和35年5月11日制定



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定

THE SYMBOL BIRD
IN KUMAMOTO



市鳥 シジュウカラ
(シジュウカラ科)
全長約十四・五cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

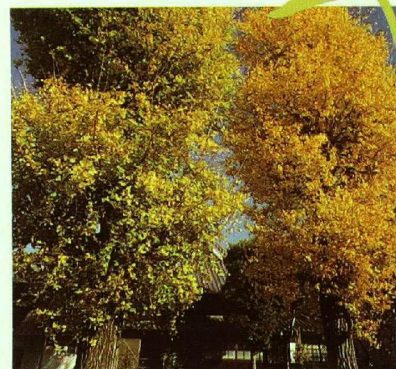
(写真は、東海大学出版会提供ファイル
ド図鑑より)

THE SYMBOL FLOWER
IN KUMAMOTO



市花 肥後椿(ツバキ科)
江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味のある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。

THE SYMBOL TREE
IN KUMAMOTO



市木 イチョウ(イチョウ科)
熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになり深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。

発刊のことば Human City くまもと



熊本市は、明治22年の市制施行以来、幾多の大きな困難に遭遇しながらも、先人のたゆまぬ努力により着実に発展を続けてまいりました。

そして平成3年2月1日には、飽託郡四町との歴史的合併が実現し、新たな熊本市が誕生したのであります。

現在、人口も64万人を擁し、この合併を契機に策定した新総合計画に基づき、都市としての魅力と活力あふれる「ヒューマンシティ・くまもと」の実現を目指して、積極的かつ計画的なまちづくりを展開しているところであります。

これまで、環境問題への積極的対応をはじめ、「長寿の里」等福祉施設の充実、道路、公園、住宅、上・下水道等の社会資本の整備などを強力に推進しており、待望の南部第一土地区画整理事業の終了、熊本駅前再開発ビルの完成、辛島公園地下駐車場の供用開始、さらには、熊本都

市圏の海の玄関口となる熊本新港の開港など、将来発展への都市基盤づくりも着実に進んでおります。

加えて、長年の念願であったドイツ・ハイデルベルク市との友好都市締結が実現するなど、市政の各分野で意欲的な対応を展開し大きな成果を上げることができました。

これらを踏まえ、平成5年度は、本市の新しい都市づくりをさらに加速させる重要な年であります。

このため、本年10月には「火の国フェスタくまもと'93」を熊本城一帯で開催いたします。このフェスタは旧飽託郡四町との合併を記念し、新生熊本市の魅力や歴史文化を国内外にアピールし、地場産業の振興と地域経済の活性化を図るとともに、本市が未来に向けて大きく飛躍する契機としたいと考えております。

また、かけがえのない地下水の保全はもとより、広く環境に関する調査・研究などを行う環境総合研究所の建設、高齢化社会、少子化社会への対応、在宅福祉センター、子ども文化施設の建設などの新規事業のほか、健軍地区や南熊本駅周辺等の拠点整備、さらには熊本港背後地整備、新幹線建設促進などの大型プロジェクトにも引き続き力を入れてまいりますのでどうか市民の皆様の一層の御支援、御協力をお願いいたします。

この'93市勢要覧は、21世紀へ向けて大きくはばたく新熊本市の姿を収録したものであり、御高覧のうえ、市政への一層の御理解をいただければまことに幸に存じます。

平成5年3月

熊本市長 田尻靖幹



HUMAN CITY KUMAMOTO

ヒューマンシティくもと

海を越え、空を飛び、人が行きかう。
経済が、文化が、確かに大地に実を結ぶ
いま、可能性に満ちた町、くもとが
未来に向かい、
大きく、羽ばたきます。



熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水校区内に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。こののち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

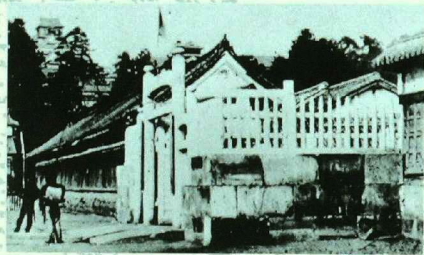
豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってき

ました。明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を

あゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

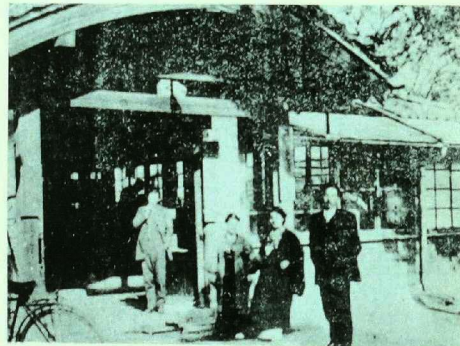
熊本市の



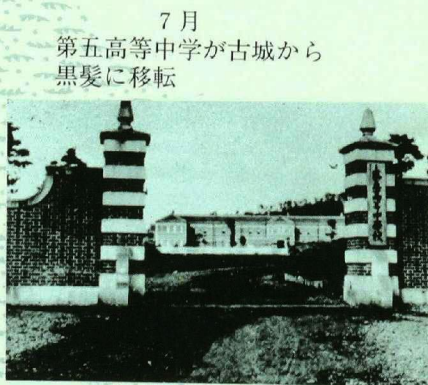
鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

大化	西暦	646	大化2年
			砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される
文明	1469	文明1年	菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く
明応	1496	明応5年	鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する
慶長	1601	慶長6~12年	加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う
	1607		
寛永	1632	寛永9年	細川忠利、肥後藩主となる
宝暦	1754	宝暦4~6年	藩校時習館、医学校再春館、蕃滋園(薬草園)などが創設される
	1756		

明	1870	明治3年	古城に医学校が創設される
	1871	4年	廃藩置県により熊本県が設置される
			鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される
			熊本洋学校が創立される
	1874	7年	九州最初の新聞、白川新聞が発行される
	1877	10年	西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
	1886	19年	熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
	1887	20年	第五高等中学校(九州に1校)が創立される
治	1889	22年4月	市町村制が施行され、熊本市が誕生する
			市域面積5.55km ² 、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった
		6月	赤十字社熊本支部設立
			新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁



新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。



明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期にあった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断の努力によって、困難を克服した熊本市はその後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、平成元年4月には市制施行100周年という大きな節目を迎えました。

そして、平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町、飽田町、天明町と合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの新熊本市が誕生しました。

更にこの合併を機に「ヒューマンシティくまもと」の実現のため「熊本市基本構想」を策定し、これを基に「熊本市総合計画」を定め、「水と緑の人間環境都市」「いきいきとした市民福祉都市」「活力あふれる交流拠点都市」「風格ある文化創造都市」の4つの都市像を目標とし、新たな一歩をふみ出しました。

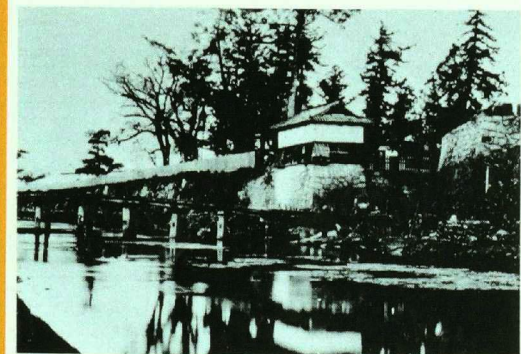
1890	明治23年10月	教育勅語発令(井上毅と元田永孚が成案)
	11月	第1回帝国議会が開かれる
1891	24年7月	門司・熊本間の九州鉄道が開通
		熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がとる
	11月	ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
1892	25年4月	塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
1894	27年7月	第6師団に動員令がくだる
		孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
	8月	日清戦争がはじまる
1895	28年11月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
1896	29年4月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
	9月	私立医学校が設立される
1898	31年1月	熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置
	10月	フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待労院を設立
		この年、市立避病院設立(後の白川病院)
		第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
1899	32年6月	私立医学校が熊本医学専門校となる

1899	32年12月	三角線開通
1900	33年7月	市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
1901	34年1月	熊本郵便局が電話業務を開始



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。

1902	35年11月	明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行
		行幸橋を架設



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。

1903	36年3月	市区改正の事業と新市街の事業完成
------	-------	------------------

1904	37年2月	日露戦争はじまり、第6師団出征
1906	39年3月	熊本高等工業学校設立
	9月	夏目漱石が「草枕」を発表
1907	40年7月	九州鉄道が国有となる
	12月	熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設



軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。

1908	41年2月	人力車争議おこる
1909	42年	鹿児島本線全線開通
1910	43年1月	薬学専門学校発足
	4月	女子師範学校発足
	6月	熊本ガス株式会社が開業する
1911	44年4月	市立実科高等女学校開校
		市立工業徒弟学校開校
	10月	菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設

- 大
- 1913 大正2年
この年、熊本軌道が田崎・百貫港、
田崎・高麗門に開通
- 1914 3年7月
第1次世界大戦はじまる
- 1915 4年11月
御大典記念奉祝共進会を開催
- 1916 5年6月
県公会堂が市に移管される
- 1917 6年3月
熊本市工業従弟学校が
熊本商工学校となる
- 1918 7年7月
このころより全国に米騒動
- 10月
スペイン風邪が流行し、
全国で死者15万人
- 1920 9年10月
第1回国勢調査で、
市人口70,388人(市史)
戸数 13,817戸
- 1921 10年6月
隣接11ヶ町村を合併、
人口133,467人
戸数23,819戸の大熊本市が発足
(黒髪・池田・花園・島崎・横手・
春日・古町・本荘・春竹・大江・
本山)
- 正



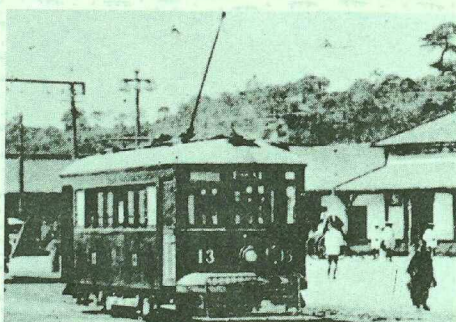
大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人々たち。

- 大
- 1922 11年4月
熊本市立実科高等女学校が
熊本市立高等女学校となる
- 5月
熊本医学専門学校が医科大学に
- 1923 12年12月
手取本町に市役所新庁舎完成
- 大



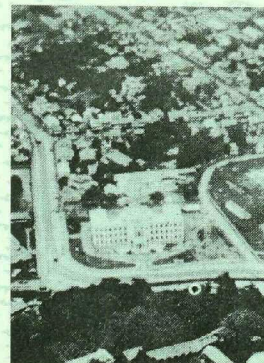
大正12年12月、市役所新庁舎完成。

- 1924 13年8月
市営電車開通(車輦15台)
開通に伴い鉄筋コンクリート大甲
橋を架設
- 正



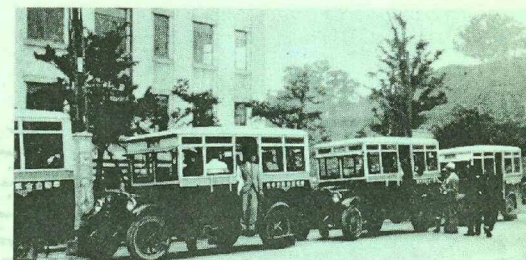
大正13年8月1日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。

- 10月
歩兵第23連隊が
渡鹿に移転
- 11月
熊本市上水道完成



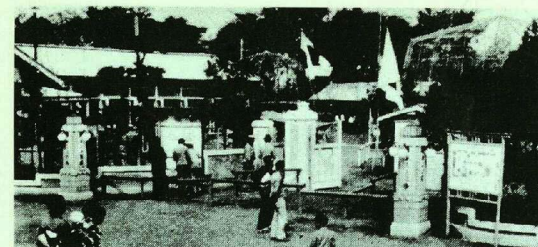
大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。

- 大
- 1925 14年3月
市三大事業(市電、上水道、
23連隊移転)完成記念共進会開催
入場者133万人
- 4月
出水村を市に合併
- 1926 15年8月
三大事業完成記念共進会の剰余金
で五高と下河原にプールを造成
- 1927 昭和2年2月
長六橋を近代式鉄橋に架け替える
- 7月
市立工業研究所(後の工芸指導所)
が開所
- 12月
市営バス発足(バス17台)
この年、市及び市付近の人力車812、
乗用馬車4、自動車115
- 昭



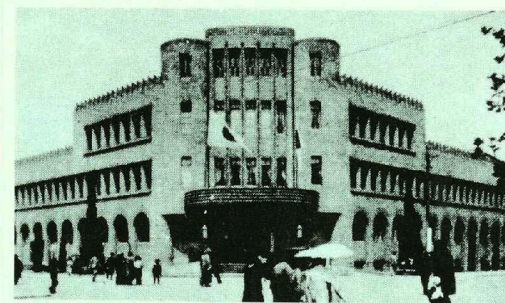
昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。(写真は昭和8年6月)

- 1928 3年2月
第16回総選挙、最初の普通選挙
行われる
- 6月
NHK熊本放送局でラジオ初放送
- 9月
御大典記念事業として、
陸上競技場・野球場が完成
- 1929 4年7月
水前寺動物園が開園
- 1930 5年3月
熊本市歌を制定
- 和



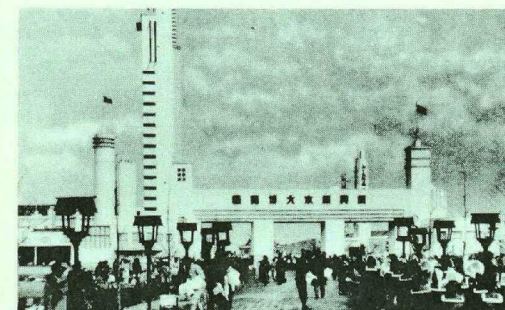
昭和4年7月に
水前寺動物園が開園。

- 1930 5年4月
市営勸業館が新市街に開館
- 10月
市公会堂新館が開館
- 昭



昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

- 1931 6年6月
白坪村を市に合併
- 11月
天皇陛下をお迎えし、熊本平野等
で陸軍特別大演習を挙げる
- 1932 7年9月
失業救済の土木事業をはじめる
- 12月
画図村を市に合併
- 1933 8年3月
花園町に市営墓地を開設
- 4月
熊本高等小学校が再設開校
熊本駅に観光案内所を設置
- 1935 10年3月
新興熊本大博覧会を開催
- 和



昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。

- 1936 11年11月
健軍村を市に合併
- 1939 14年4月
清水村を市に合併
- 1940 15年12月
川尻町、日吉村、力合村を合併
この年、市営バスに木炭車登場
- 1941 16年4月
小学校が国民学校に改められる
- 12月
太平洋戦争はじまる
- 1942 17年4月
九州日日新聞と九州新聞が
統合され、熊本日日新聞が発足
- 1943 18年
この年、学徒、女子挺身隊の
戦時動員が開始される
健軍に三菱重工業航空機製作所が
完成する
- 1944 19年3月
市電気局が市交通局と改称
- 1945 20年6月
市立本荘産院が発足
- 7月
7月・8月の空襲で市の大半が
焦土と化す
- 8月
終戦の詔書放送
- 1946 21年2月
市立市民病院発足
- 11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる
- 1947 22年4月
市長、県知事が初めて公選で
決まる 国民学校が小学校に
また新制中学が誕生
- 5月
憲法、地方自治法施行
- 1948 23年3月
市消防本部設置
市立母子寮を開設
- 昭

- 1948 23年3月
市自治警察本部設置
(新警察制度発足)
- 4月
新制高等学校発足する
- 1949 24年4月
「火の国まつり」はじまる
市立実務員養成所(後の実務商業)
を開設
- 昭

- 5月
天皇皇后両陛下ご来熊
この年、国立熊本大学発足
県立熊本女子大学が創設される
市立熊本保健所を上林町に開設

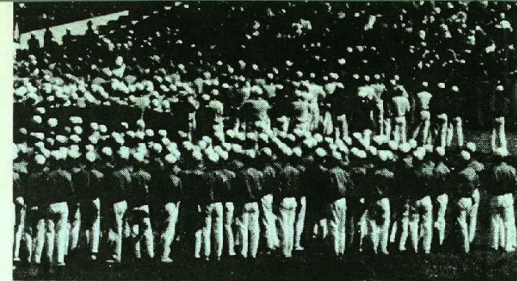
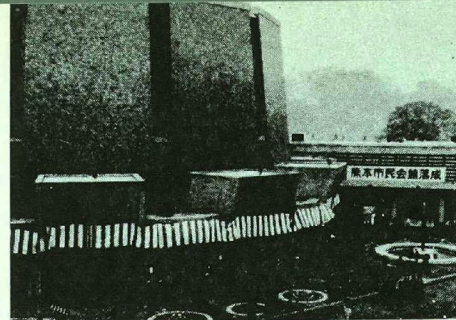
- 1950 25年6月
朝鮮戦争おこる
- 7月
市競輪事業開設
熊本市立産院開設
- 1951 26年4月
市教育研究所を設置
- 1952 27年1月
市立博物館開館
- 7月
住民登録制度を実施
- 1953 28年4月
田迎村、御幸村を市に合併
- 6月
豪雨、大水害で市人口の
66%が罹災
- 和



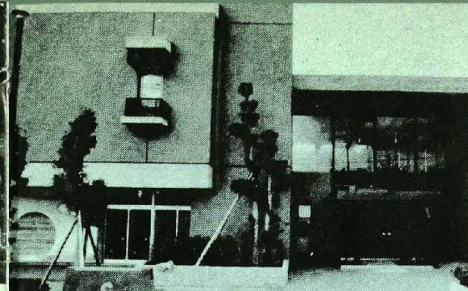
「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。
流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と日数
を要した。(上通り筋)

熊本市の
あゆみ
THE COURSE OF
KUMAMOTO

昭和43年1月6日市民
会館が完成。一、八〇
〇人収容の大ホールと
各種の会議室を備えた
近代建築。



昭和35年10月、
第15回国民体育大会は、
全国から1万3千人が集まり
盛大に開催された。



昭和52年9月
東部市民センター開設。

産業文化会館



昭和54年10月1日、市制90周年の
記念すべき式典の席上で
中国桂林市と友好都市締結。

- 昭和
- 1953 28年7月
池上村、高橋村、城山村を
市に合併
- 10月
市立図書館発足 ラジオ熊本開局
- 1954 29年6月
市自治警察廃止（警察制度改正）
- 10月
秋津村を市に合併 市電30年記念
「交通観光博覧会」を開催
- 1955 30年4月
松尾村を市に合併
- 1956 31年4月
託麻村の一部を市に合併
- 1957 32年1月
小島町、龍田村を市に合併
- 7月
大水害で市の33%が浸水し、
金峰山周辺の山津波で死者、
行方不明多数を出す
- 1958 33年2月
NHK熊本テレビ開局
- 4月
中島村を市に合併
天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、
水前寺などをご観覧
第30回選抜高校野球大会で
済々黉が優勝
- 和
- 9月
熊本市体育館が
水前寺公園横に完成
- 1959 34年4月
国民年金制度発足
- 7月
国民健康保険制度発足
- 1960 35年4月
熊本空港開設
- 5月
愛市憲章を制定
- 8月
熊本城天守閣再建完成

- 昭和
- 1960 35年9月
第15回国民体育大会を開催
- 12月
西保健所を開設
- 1962 37年3月
天守閣再建記念
「躍進熊本大博覧会」開催
- 11月
市立ユースホステル開館
- 1963 38年4月
北部清掃事業所開所
- 1964 39年4月
市総合計画策定（マスタープラン）
- 10月
「まちをキレイにする運動」が
はじまる
- 12月
東部污水处理場完成
- 1965 40年4月
市食肉センター開所 この年、
市内全小学校にプール完成
- 1966 41年9月
西部清掃事業所開所
市民相談室を設置
- 10月
熊本保健所が九品寺1丁目に
新装発足
- 1967 42年3月
出水町に県庁新庁舎が完成
- 1968 43年1月
市民会館開館
- 4月
市社会教育会館が開館
市有英奨学制度創設
- 1969 44年4月
熊本（水辺）動物園が完成し、
「熊本動物大博覧会」を開催
- 8月
熊本市章きまる
- 1970 45年11月
託麻村を市に合併
- 1971 46年4月
新熊本空港開設
- 5月
市勤労青少年ホーム開館

- 昭和
- 6月
九州縦貫自動車道
（熊本・植木間）開通
- 7月
熊本市基本構想きまる
- 11月
市立ユースホステル開館
- 1972 47年10月
「森の都」を宣言し、
森の都作戦を展開
- 12月
秋津下水処理場が完成
- 1973 48年1月
戸島町に市斎場開設
- 5月
学校給食東共同調理場が完成
- 1974 49年6月
勤労婦人センターを本山町に開設
- 10月
西部、南部市民センターが完成
森の都のシンボルとして市の木
「イチチョウ」、市の花「肥後ツバキ」
がきまる
- 1975 50年5月
身体障害者福祉モデル都市に
指定される
- 9月
南千反畑町に
中央老人福祉センターが完成
- 10月
市立金峰山少年自然の家が開所
- 1976 51年3月
「地下水保全都市」を宣言
- 1977 52年4月
西南の役百周年記念式典を行う
- 5月
熊本市人口が50万人を突破



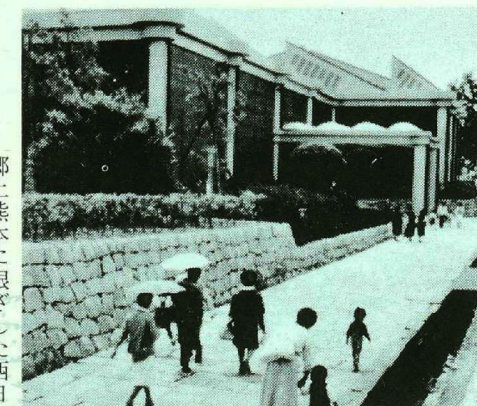
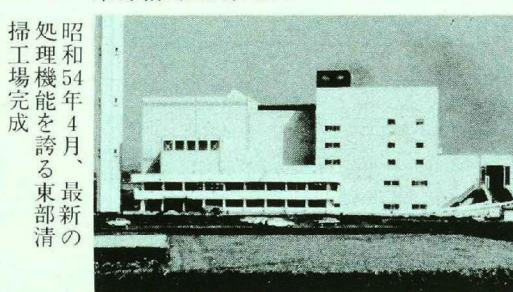
昭和46年6月、熊本・植木間
の高速自動車道が開通した。

- 昭和
- 52年9月
錦ヶ丘に東部市民センター完成
地下水保全条例を制定する
- 1978 53年4月
新しい熊本博物館が開館
- 8月
市民総参加の
「火の国まつり」が誕生



昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、
市民総参加の「火の国まつり」が始まる。

- 1979 54年4月
東部清掃工場完成

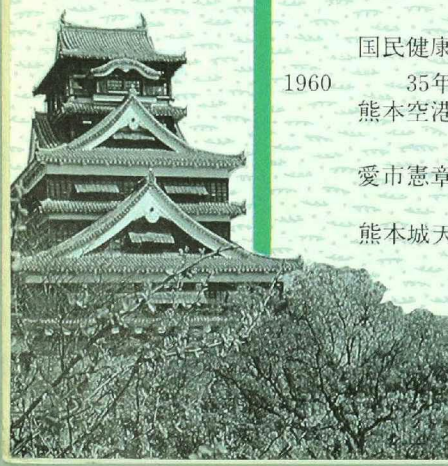


郷土熊本に根ざした西日
本一の熊本市博物館が
昭和53年4月1日に開館

- 昭和
- 1979 54年4月
新熊本市市民病院開設
- 7月
熊本市保健センター 開設
（現東部保健センター）が開所
- 龍田市民センター完成
- 10月
「健康都市」を宣言
中国・桂林市と友好都市締結
市制90周年記念式典を行う
養護老人ホーム明生園開園
- 1980 55年6月
身障者福祉センター希望荘開設
- 8月
水害で約16,900人の市民の
罹災者を出す
- 12月
熊本市総合計画基本構想きまる
- 1981 56年1月
熊本市保健衛生研究所開設
- 2月
熊本城西大手櫓門復元完成
- 3月
産業文化会館が開館
- 5月
託麻市民センター完成
- 7月
熊本市総合計画基本計画きまる
- 8月
西ドイツ・ハイデルベルク市へ
友好訪問団を派遣
- 10月
熊本市民の翼、
友好都市桂林市を訪問
- 11月
新市庁舎建設完成
- 1982 57年6月
幸田市民センター完成
- 7月
北部保健センター開設
小楠記念館完成

- 昭和
- 青少年野外活動センター完成
- 8月
西ドイツ・ハイデルベルク市
管楽五重奏団来熊
- 11月
図書館完成
- 1983 58年4月
龍田体育館完成
- 1984 59年5月
市の鳥としてシジュウカラ制定
扇田埋立処分場供用開始
- 7月
清水市民センター完成
- 8月
熊本市の人口が55万人を突破
- 10月
消防新庁舎完成
- 1985 60年6月
母子福祉センター完成
- 8月
秋津市民センター完成
- 1986 61年1月
熊本市自転車駐車場完成
- 3月
電子計算システム始動
- 4月
西部清掃工場完成・
東部清掃事業所開所
- 7月
総合体育館・青年会館開館
- 8月
第4回全国都市緑化くまもとフェア
開催（8月1日～10月12日）
- 10月
10月1日を「市民健康の日」と制定

昭和56年11月
新市庁舎完成



昭和35年9月、83年ぶりに
熊本城天守閣が再建された。

熊本市の あゆみ THE COURSE OF KUMAMOTO

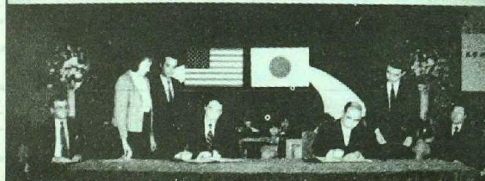
- 昭和
- 1987 61年12月
新西保健所開設
 - 62年4月
川尻下水処理場運転開始
 - 5月
「ふれあいの森林」
内に森林学習館がオープン
 - 7月
南部市民センター開設
 - 9月
西消防署が移転新築
教育センターオープン
 - 10月
第1回熊本緑化祭開催
 - 12月
米国・サンアントニオ市と
姉妹都市締結
 - 1988 63年1月
くまもと女性フォーラム'88開催
 - 2月
シルバー人材センター発足
 - 4月
大阪事務所オープン



女性消防士誕生

- シンボルマーク発表会
長堀通り開通
- 7月
大江市民センター完成
- 8月
江津湖まつり(マイソング発表会)

熊本市・サンアントニオ市 姉妹都市締結調印式



昭和62年12月、
米国サンアントニオ市
と姉妹都市締結。



昭和62年9月、教育センターオープン。

- 平成
- 1989 10月
くまもと緑化祭・地場産業振興フ
ェア開催
 - 平成元年1月
坪井川リバーウォーク構想発表
 - 3月
市議会で飽託郡四町からの合併請
願採択
 - 4月
「熊本百彩」開幕
流通情報会館完成
「水源かん養林記念植樹祭」
 - 5月
サンアントニオ市に「熊本園」完成
 - 6月
託麻北小学校に屋上プール完成
 - 8月
金絲猴一般公開

熊本市制100周年記念式典



平成元年10月1日
市制100周年記念式典

- 南部保健センター開設
- 9月
宇土櫓・数寄屋丸二階御広間完成
動物資料館完成
熊本城フェスティバル
- 10月
歴史都市サミット開催
- 11月
大阪で「くまもと農産物フェア」
開く



昭和63年4月
長堀通り開通

- 平成
- 1990 平成2年3月
政治倫理条例制定
 - 4月
「総合婦人会館・カルチャーセンタ
ー」がオープン
 - 武蔵塚公園が新たに開園
 - 5月
川尻下水処理場汚泥焼却場完成
 - 6月
中国・桂林市、アメリカ・サンア
ントニオ市、ドイツ・ハイデルベ
ルク市を迎え「水資源国際会議」
を開催
 - 7月
「歴史廻廊都市くまもと」作成
 - 8月
花園市民センターがオープン
市民長寿社会憲章制定
 - 9月
平成学園オープン
熊本駅前北地区再開発ビル着工
 - 10月
「熊本桂林友誼館」が落成
第1回女性問題全国会議開催
「水の科学館」が開館
 - 11月
第3回地場産業振興フェア開催



総合婦人会館
カルチャーセンタ
ー

水の科学館

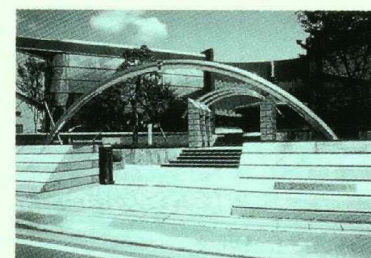


水資源国際会議



熊本市と飽託郡四町が合併

- 平成
- 1991 平成3年1月
洗馬橋電停が改装され「船場ボケ
ットパーク」が完成
 - 2月
熊本市と飽託郡四町が合併
 - 3月
熊本市基本構想策定
 - 4月
2歳児未満の医療費が無料に
「市立実務商業専門学校」が「市
立総合ビジネス専門学校」と名称
を変え移転開校



市立総合ビジネス専門学校

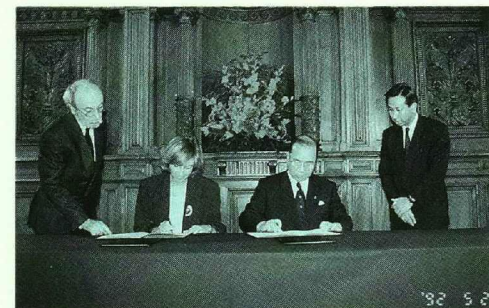
- 「五福地域開発センター」が落成
武蔵塚公園に「清靖亭」完成
- 5月
本荘犬瀬線立体交差開通
- 6月
「南部総合スポーツセンター」が
オープン
「みかんの里振興センター」オー
プン
「天明コミュニティセンター」オー
プン
- 7月
在宅歯科検診制度発足
「くまもと工芸会館」がオープン
- 9月
台風19号来襲

台風19号の被害



くまもと工芸会館

- 平成
- 10月
動植物園のオープンを記念して
「第5回くまもと緑化祭」が開催
市営新地団地第一期工事完成
 - 11月
熊本国際コンベンション協会設
立
 - 1992 1月
基本計画策定
細川刑部邸の「長屋門」が完成
 - 3月
高規格救急車が消防局に配備
 - 4月
熊本城周遊バスがスタート
上通休日専用駐車場、駐輪場のオー
プン
 - 5月
ハイデルベルク市との友好都市締
結の調印式



ハイデルベルク市との友好都市締結の調印式

- 10階建ての市営「上高橋団地」が
完成



上高橋団地



市立高校「和敬館」

- 平成
- 6月
市電に女性運転士が誕生
 - 7月
平成駅の開業
 - 8月
熊本駅前北地区第一種市街地再開
発事業完了
市立高校「和敬館」落成
市内4か所で地域コミュニティセ
ンターがオープン
 - 9月
水産指導所がオープン
くまもと環境フェア'92を開催
 - 10月
「火の国フェスタ・くまもと'93」
前売り券の発売が開始
動植物園内に「熊本・桂林友誼亭」
が完成

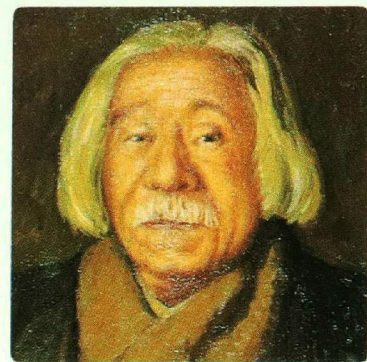


熊本・桂林友誼亭

- 11月
「長寿の里デイサービスセンター」
が完成
南部第一土地区画整理事業完了

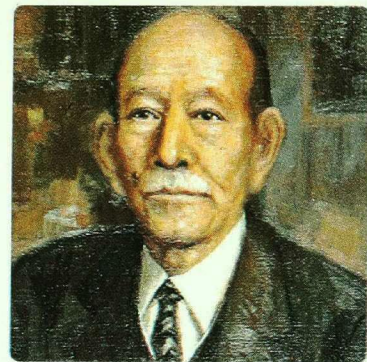


長寿の里デイサービスセンタ
ー



徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏
(昭和30年1月1日表彰)

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



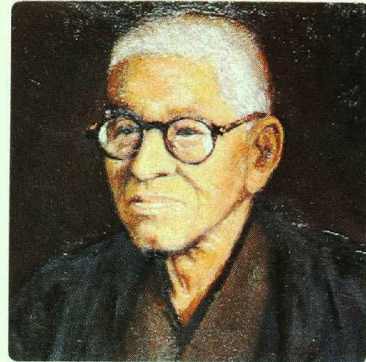
高橋守雄氏
(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏
(昭和35年4月1日表彰)

肥後旧藩主細川家16代。有斐学会会長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。

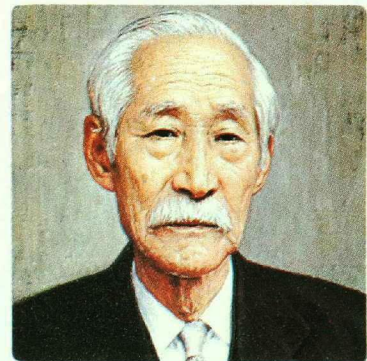


福田令寿氏
(昭和35年4月1日表彰)

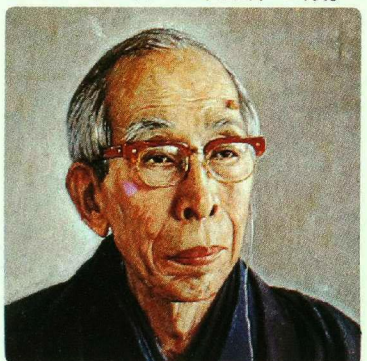
医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。

Human City くまもと 名誉市民

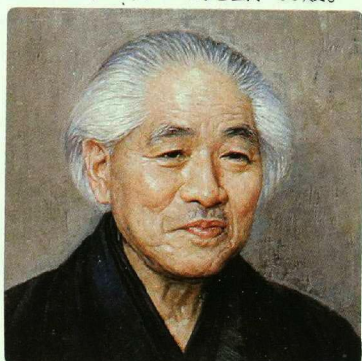
宇野哲人氏
(昭和44年10月1日表彰)
東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学究者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



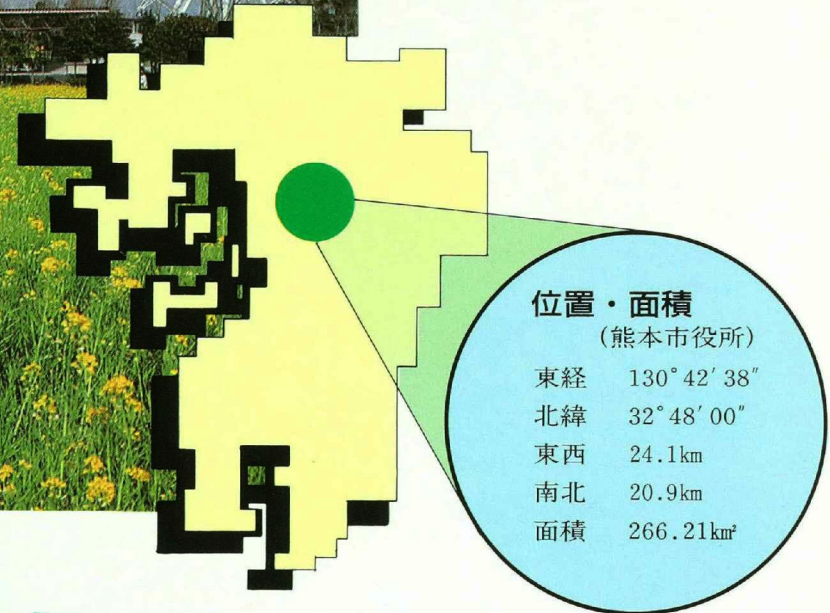
堅山南風(本名・熊次)氏
(昭和44年10月1日表彰)
横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏
(昭和54年10月1日表彰)
元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏
(昭和54年10月1日表彰)
高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。



地域と気象

HUMAN CITY KUMAMOTO

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

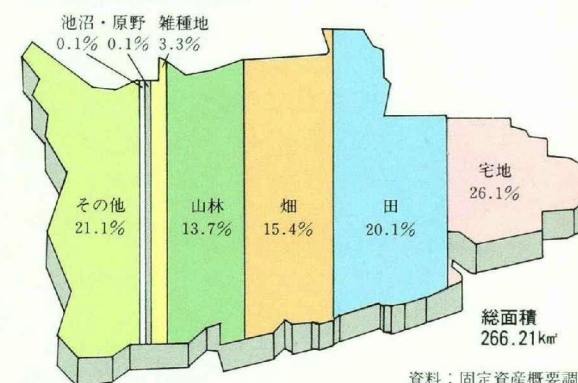
この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるた

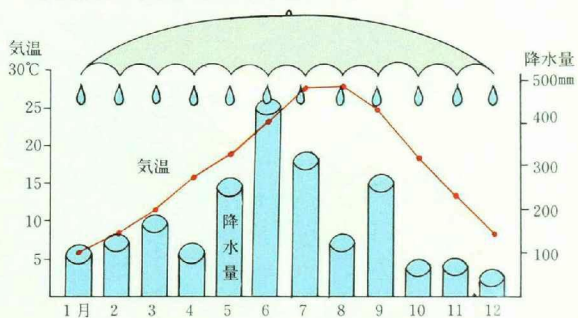
め、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均16.8℃で、平成3年の最高気温は8月の36.7℃、最低気温が2月の-5.9℃となっています。年間降水量は約2,223mmで、4月～9月の半年間に約75%の降水量があります。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2m前後のゆるやかな風が吹いています。

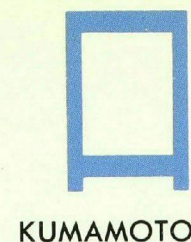
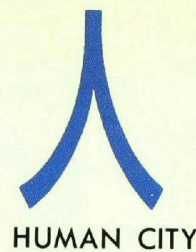
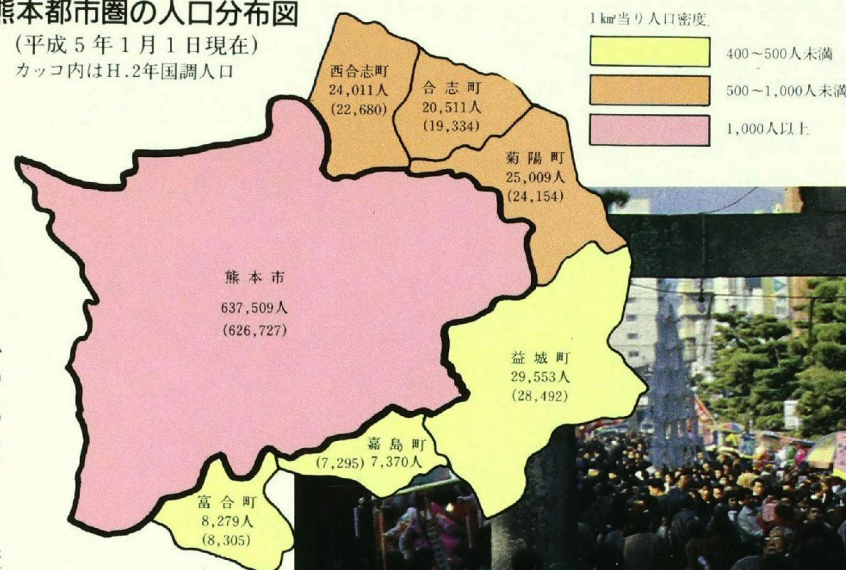
●地目別土地面積(平成4年1月1日現在)



●気温と降水量の月別変化(平成元年～平成3年平均)



●熊本都市圏の人口分布図
(平成5年1月1日現在)
カッコ内はH.2年国調人口



明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人(224,219世帯)となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.73人となっています。

また、平成2年と昭和60年の国勢調査を比べると23,587人、4.2%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が19.3%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が11.4%となっており、60年より年少人口の割合が2.2ポイント低下したのに対し、老年人口が1.5ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、平成2年の国勢調査結果でみると、およそ東部に24万7千人、北部に11万4千人、中央部に7万8千人、南部に7万4千人、西部に6万6千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

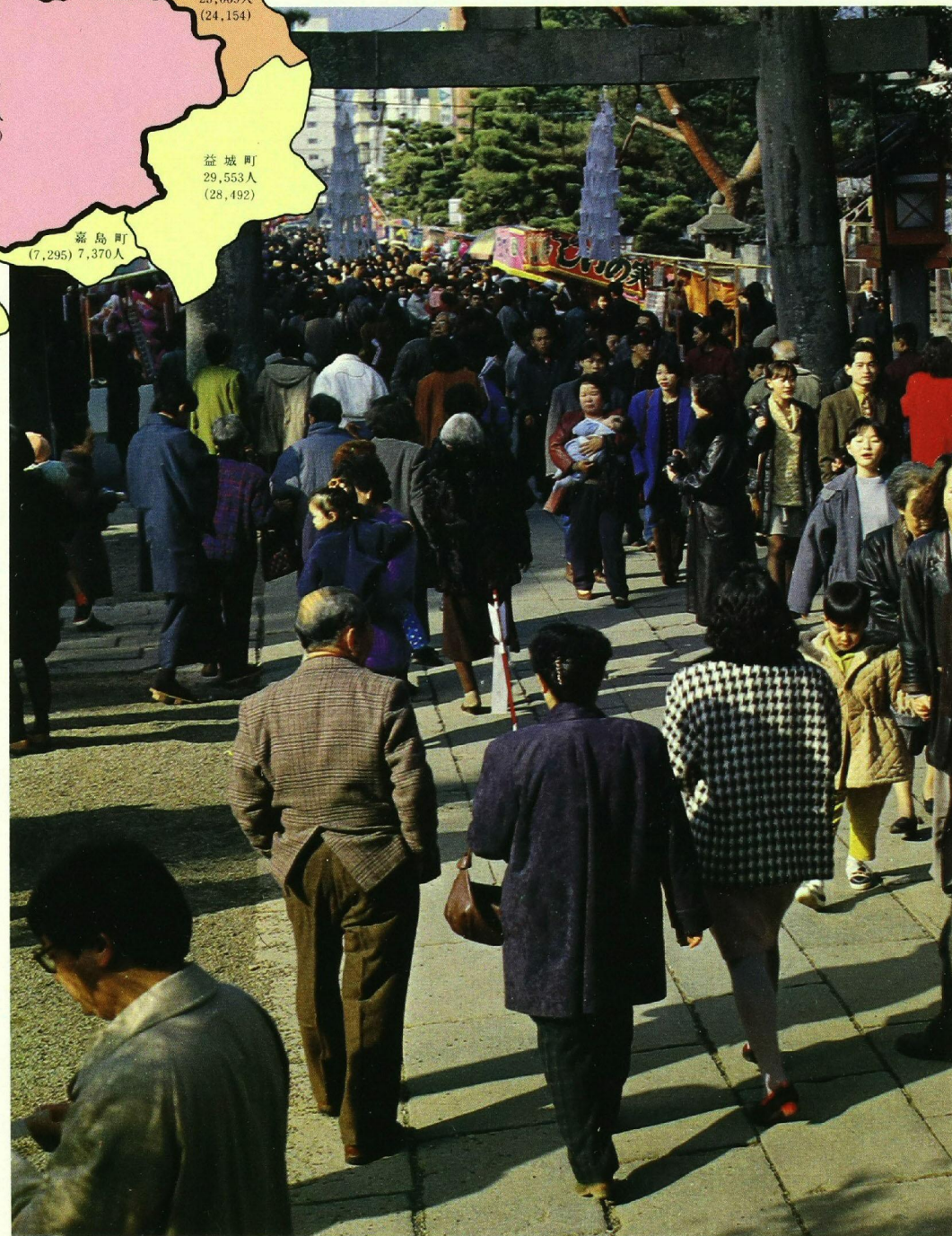
都市圏人口

熊本都市圏の人口は、平成5年1月1日現在752,242人(266,641世帯)で熊本県総人口の40.4%を占めています。人口増加率は、0.9%となっています。

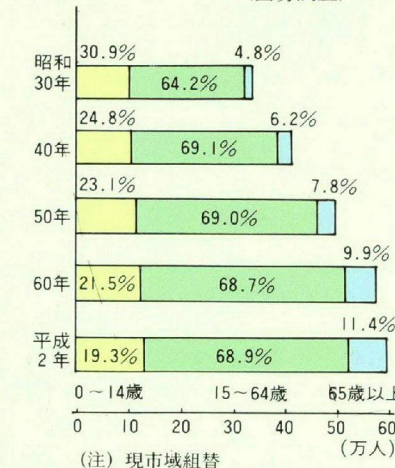
都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、

5年毎に熊本市は4万人前後で増加していましたが、昭和60年から平成2年までは約2万4千人(4.2%)の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

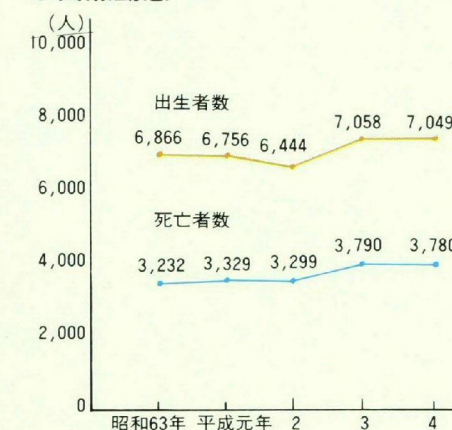
昭和45年から平成2年までの20年間の都市圏人口の増加数は約18万3千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。



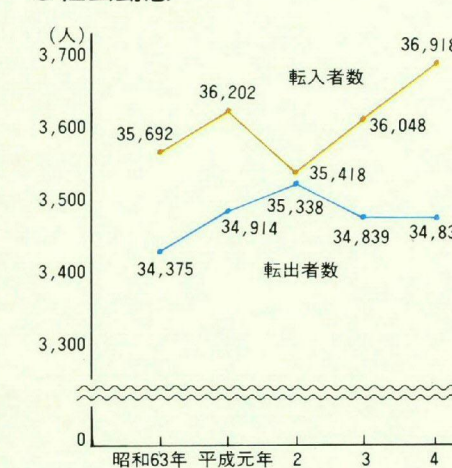
●人口の年齢(3区分)構成推移
(国勢調査)



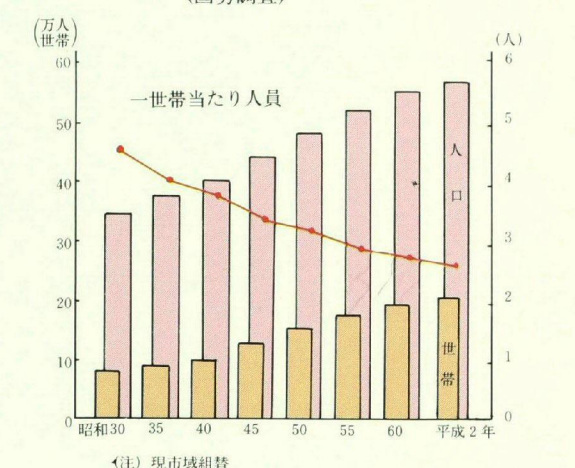
●自然動態



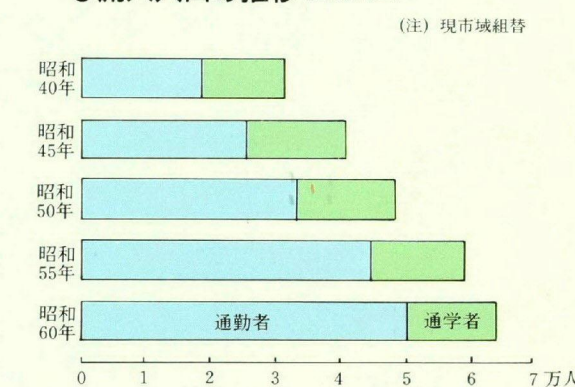
●社会動態



●人口・世帯数の推移
(国勢調査)



●流入人口の推移(国勢調査)



●年齢別人口構成(平成2年国勢調査)

